

NEWSLETTER



第 145 号

2025 年 2 月発行

ISSN: 2436 - 0864



2025 年新春富士山 (2025 年 1 月 10 日)

■ TOPICS

- » 学長・年頭挨拶
- » SOKENDAI 社会連携事業：茨城県東海村での「宇宙線ミュオンで古墳を透視」プロジェクト
- » タイ王国・ハーサーラカーム大学 (Mahasarakham University) との大学間学術交流協定に署名
- » 湘南国際村アカデミア講演会「カフェ・インテグラル」 / 総合研究大学院大学 統合進化科学研究センター「学術講演会」開催
- » SOKENDAI 社会連携事業「未知への挑戦：若手が語る最先端研究 2024」
- » モンゴル科学アカデミー大学 (University of Mongolian Academy of Sciences) 学長が来訪
- » 大学共同利用機関シンポジウム 2024 開催
- » 2024 年度永年勤続者表彰式を举行
- » 中間報告論文研究発表会のオンライン開催
- » ウズベキスタン共和国駐日大使館の公使参事官が本学を表敬訪問

■ 受賞情報

■ プレスリリース情報

■ 研究助成学生の研究紹介

■ メディア情報

■ イベント情報

■ その他

TOPICS

2025/1/1 学長・年頭挨拶

新しい年を迎えるにあたり、皆さまにひとことご挨拶申し上げます。



昨年を振り返ると、元日に発生した能登半島地震や翌2日の羽田空港火災など、まさに多難な一年を象徴するような幕開けであったとの感を拭きません。その後も、各地の豪雨災害や南海トラフ巨大地震注意の発出など、人々の生活を脅かす出来事が多々起こりました。改めて、災害の犠牲となられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

世界に眼を向ければ、長期化するロシアのウクライナ侵攻や死者4万人を超えるガザ地区の戦闘、世界各国の不安定な政治情勢やエネルギー危機など、人類社会の潮流が望ましからざる方向に向かっていくとの不安を覚えるのは私だけではないと思います。

学術の世界においても、潮流の変化を実感した年でした。10月に発表されたノーベル賞は、人工知能の基礎となる手法を開発した2人の研究者に物理学賞が、計算機や人工知能を使ってたんぱく質の設計や構造予測を可能にした3人の研究者に化学賞が贈られました。既存の学問体系や研究手法には囚われない、これからの学術の方向性を強く感じさせる受賞であったと同時に、学術の世界に留まらず、人工知能や生成AIが人間の諸活動や思考にますます深く浸透してくる未来の社会像を否応なく想像させる出来事でした。

そのような時代だからこそ、一人ひとりが“自分の頭で考える”ことの重要性を痛感します。世界の各地で紛争が勃発し、異常気象による災害が頻発する中で、どうしたら世界が少しでも良い方向に向かって進んでいけるのか、人類の考える力が試されているような気がしてなりません。

ますます厳しくなる状況のなか、SOKENDAIは何処に向かい何をすべきかを常に考え、学内外の方々とも真摯に議論しながら、全力で大学運営に努める所存であります。皆さまにも、どうぞ温かいご支援をいただけますよう、本年もよろしくお願い申し上げます。

>> URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2024/20250101.html>

2024/8/31、10/13 SOKENDAI 社会連携事業：茨城県東海村での「宇宙線ミュオンで古墳を透視」プロジェクト

2024年10月13日(日)、茨城県東海村の「舟塚古墳群2号墳」に、本学教員が製作を支援したミュオン測定器が設置されました。

この取組みは、東海村教育委員会、J-PARC センター、茨城大学および東京都立大学による「宇宙線ミュオンで古墳を透視プロジェクト」の一環で、本学も SOKENDAI 社会連携事業として、このプロジェクトを支援しています。

■ SOKENDAI 社会連携事業「茨城県東海村での『宇宙線ミュオンで古墳を透視』プロジェクト」について

SOKENDAI 社会連携事業は、本学の研究や教育の成果を社会に還元することを目的とした事業です。「茨城県東海村での『宇宙線ミュオンで古墳を透視』プロジェクト」はそのひとつで、宇宙線ミュオンによる古墳の非破壊透視調査を通じて、科学や総研大/J-PARC センターの研究に対する興味関心を深めてもらうことを目的としています。

■ プロジェクトの概要～ミュオンにコーフンクラブ～

茨城県東海村には重要な歴史的価値をもつ古墳が数多く残されています。「宇宙線ミュオンで古墳を透視プロジェクト」では、それらの古墳を「宇宙線ミュオン」を利用して非破壊的に内部透視する調査研究を推進するとともに、小中高生を対象とした文理融合型の教育プログラムを行っています。

2023年4月からスタートした本プロジェクトは、現在2年目を迎え、プログラムに参加する東海村および近隣市町村や茨城県外の子どもたちで構成される「ミュオンにコーフンクラブ」では、宇宙線や古墳について学びを深めるとともに、藤井芳昭氏(J-PARC センター/総研大名誉教授)や小林隆氏(J-PARC センター長/総研大・素粒子原子核コース教授)らをはじめとする専門家チームの指導を受けながら、ミュオン測定器の製作に取り組んでいます。

■ ある日の活動～「宇宙・加速器の講座」と測定器の組立体験～

今年度3回目の活動日となる8月31日(土)、「ミュオンにコーフンクラブ」の活動拠点である東海村「歴史と未来の交流館」では、高エネルギー加速器研究機構の小林愛音助教による「加速器で宇宙ふしぎ発見!」の講義と、ミュオン測定器の組立体験が行われました。



簡易測定器組立の様子

前半の講義では、宇宙のはじまりから、素粒子や加速器の研究についてわかりやすく語られ、参加者はみな熱心に聞き入っていました。講義の後、当日の参加者18名が4グループに分かれ、藤井氏をはじめとするJ-PARC センターの研究者や茨城大学の学生チューターの指導のもと、今後の測定器製作の練習を兼ねた簡易測定器の組立を行いました。各グループとも、自分たちが組み立てた

測定器でミュオン検出することができ、今後の古墳透視活動に対する期待が大いに高まりました。

■ミュオン測定器の設置

5回目の活動日となる10月13日(日)、清々しい秋晴れの空のもと、昨年度製作されたミュオン測定器「歴史と未来の測定器」が古墳に設置されました。

当日、「ミュオンにコーフンクラブ」の皆さんは「歴史と未来の交流館」に集合した後、バスで「舟塚古墳群2号墳」に移動しました。現地では測定器を乗せたクレーン車が待っており、参加者全員が見守るなか、作業員がクレーンで慎重に測定器を吊り上げ、台座に設置しました。設置後、測定器をつなぎ稼働させると、無線ネットワークを通して測定データが確認でき、設置の成功に「ミュオンにコーフンクラブ」の皆さんも大興奮の様子でした。



測定器設置の様子。測定器の重さは約200kg!

測定器で収集したデータをノートPCで確認している様子



測定器を囲んで記念撮影。本日のかけ声「古墳に、コーフン!」でガッツポーズ!

今回設置した測定器のデータを解析しつつ、古墳内部のより正確なデータを収集するためには、もう1台測定器を設置する必要があります。「ミュオンにコーフンクラブ」では2台目の測定器の完成を目指し、今後も製作に取り組んでいきます。SOKENDAI 社会連携事業としても「ミュオンにコーフンクラブ」の更なる活躍を期待して、引き続き本プロジェクトを支援していきます。

≫ URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2024/20241112.html>

【広報社会連携係】

2024/10/24 タイ王国・マハーサーラカム大学 (Mahasarakham University) との大学間学術交流協定に署名

2024年10月24日(木)、総合研究大学院大学の永田敬学長とマハーサーラカム大学 (Mahasarakham University) の Prayook Srivilai 学長は、核融合科学研究所 (岐阜県土岐市) において行われた両大学間の学術交流協定調印式に出席し、協定書へ署名しました。

マハーサーラカム大学は、1968年にタイ東北地方への高等教育の普及を目的として設立されたマハーサーラカム教育カレッジ (College of Education, Mahasarakham) を前身とするタイで22番目の国立大学です。



左 永田学長、右 Prayook Srivilai 学長

マハーサーラカム大学とは、「教職員及び研究者の交流」、「大学院学生の交流」、「共同論文指導の実施」、「共同研究の実施」、「講義、講演、シンポジウムの実施」、「学術情報及び資料の交換」を行うこととしており、こうした取組みを通じて、総研大は東南アジア諸国との交流をさらに推進していくこととしております。



記念写真

≫ URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2024/20241101.html>

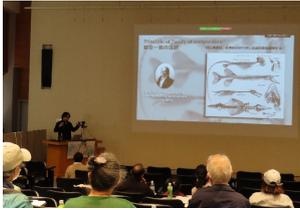
【広報社会連携係】

2024/11/3 湘南国際村アカデミア講演会「カフェ・インテグラル」/総合研究大学院大学 統合進化科学研究センター「学術講演会」開催

統合進化科学研究センターは、地域社会との交流を深めるとともに、科学の新しい流れを創造する最前線の研究について広く一般の方々に分かり易く伝えて行くことを目的に、毎年11月3日文化の日に学術講演会を開催しています。

今年は、かながわ国際交流財団主催の「湘南国際村アカデミア講演会 カフェ・インテグラル」との共催で実施しました。当日は天候に恵まれ、近隣住民の方を中心に29名の方が来場し、オンラインでは36名が参加しました。

第1部は、東山大毅 特別研究員による「哺乳類の鼻はどこから来た? - 脊椎動物の顔の進化形態学」、第2部は蔦谷匠 助教による「森の賢人を追って - 野生オランウータンの調査研究」の講演が行われました。



東山 大毅特別研究員講演の様子



髙谷匠助教講演の様子

参加者からは、「色々な知識を得ることができました」「もう少し時間を長くしてほしい。二つの講演とも楽しく聴かせてもらいました」「人の研究をしています、今までと異なる広い視点を得たように感じました」「映像が多くてとても分かり易かった」などの感想があり、盛況のうち終了となりました。

【統合進化科学研究センター】

2024/11/5-11/6 SOKENDAI 社会連携事業「未知への挑戦：若手が語る最先端研究 2024」

2024年11月5日（火）から6日（水）の2日間、長野県飯田市にある長野県飯田高等学校にてSOKENDAI社会連携事業「未知への挑戦：若手が語る最先端研究 2024」が行われました。

■ SOKENDAI 社会連携事業「未知への挑戦：若手が語る最先端研究 2024」について

SOKENDAI 社会連携事業は、本学の研究や教育の成果を社会に還元することを目的とした事業です。「未知への挑戦：若手が語る最先端研究 2024」はそのひとつで、本学、長野県飯田高等学校および飯田市との三者連携による事業です。本事業は、本学で研究の最前線にいる大学院生が、研究の面白さ、研究活動が私たちの社会生活にどう関わっているか、また日々培っている探究的思考の意義などを高校生に熱く語ってもらうことで、高校生たちに研究への興味関心を高めてもらうことを目的としています。

■ 概要

今年度は情報学専攻 / コース、遺伝学コース、基礎生物学専攻、統合進化科学コース、日本語言語科学コースから7名の大学院生が飯田高等学校を訪れ、高校1、2年生の希望者を対象にした授業（1日目）および交流会（2日目）を行いました。

■ 1日目：授業

大学院生7名は、スライド作成やリハーサルなど準備に準備を重ねて授業に臨みました。当日は、高校1、2年生の希望者を対象に4つの教室に分かれて授業を行いました。講師役の大学院生は、それぞれの研究内容、研究の道を選んだ理由、今に至るまでの経緯や総研大を選んだ理由、研究の面白さや意義などを、スライドを使用しながら丁寧にわかりやすく説明しました。高校生はメモを取りながら熱心に授業に参加し、授業終了後には大学院生に質問する姿も見られました。高校生からは、「研究って面白い!」「進路を選択するときの参考になった」「身近なことが研究テーマになることが分かった。自分も研究してみたい」など前向きなコメントが多く聞かれました。また、飯田高等学校の先生方からは、年の近い大学院生から直に話を聞ける機会はとても貴重であり、生徒が大学院や研究の道に進むことを考えるよいきっかけになることを期待している、とのコメントがありました。



授業の様子



交流会の様子

■ 2日目：交流会

理数科の1年生と2年生を対象に、それぞれ1時間ずつ交流会が行われました。

交流会では、高校生6名程度のグループにつき1名の大学院生が加わり、20分に入れ替わりながら、高校生が現在取り組んでいる研究活動に対してアドバイスをしたり、質問に丁寧に答えたりしました。1年生からは特に、大学と大学院の違いや、高校生のうちに経験しておいたほうがよいことなど、2年生からは仮説の立て方や検証の方法、発表の仕方など、より研究に特化した話が各グループで展開されていました。交流会の最後には、じゃんけん大会が行われ、勝者には総研大Tシャツがプレゼントされ、大いに盛り上がりました。

今回のプログラムを通して、大学院生からは、自身の研究内容を分かりやすく伝えることの難しさや大切さを感じた、今回の体験を通して得た学びや気づきを今後様々な場面でいかしていきたい、といった感想がありました。また、準備から実施まで一生懸命に取り組み、高校生の反応を直に受け取ることで自信や達成感が得られた様子が見られました。さらに、今回大学院生を指導した教員からは、準備時間に制約がある中、各自真剣に準備をし、結果的にとても完成度の高い授業を行えたことが素晴らしい、専攻・コースの異なる大学院生同士や高校生、高校の先生方や行政の方など、普段大学の中だけでは望めない人々と交流する機会が得られたことや、実際に授業を行うことで大学院生の自信が醸成されたことは、大学の教育プログラムとしても大変有意義である、などのコメントがありました。こうしたプロジェクトを通じて、今回本事業に参加した大学院生はもとより、授業に参加した飯田高等学校の生徒たちが今後大いに活躍されることを期待します。



飯田港高等学校にて記念写真

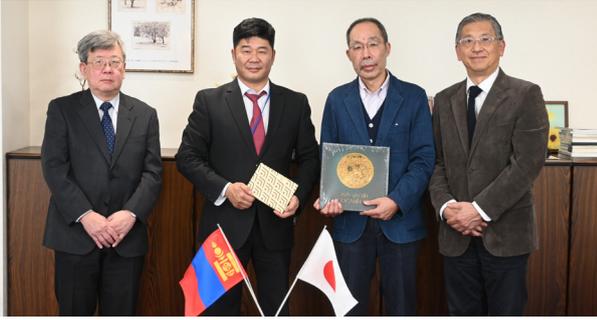
>> URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2024/20241129.html>

【広報社会連携係】

2024/11/6 モンゴル科学アカデミー大学 (University of Mongolian Academy of Sciences) 学長が来訪

2024年11月6日（水）、モンゴル科学アカデミー大学学長の Khasbaatar Dashkhuu 博士が本学を表敬訪問しました。

永田学長、山本理事及び蟻川執行役と懇談し、今後の両大学間の交流発展の可能性について意見が交わされました。



左から、山本理事、Khasbaatar Dashkhuu 学長、永田学長、蟻川執行役

【学生支援企画係】

2024/11/9 大学共同利用機関シンポジウム 2024 開催

2024年11月9日（土）、宇宙科学研究所（JAXA 相模原キャンパス）にて、『大学共同利用機関シンポジウム2024～現代の社会問題に挑む日本の科学～』が開催されました。JAXA 相模原キャンパスでの対面開催のほか、YouTube 同時配信が行われました。

大学共同利用機関シンポジウムは、大学共同利用機関、宇宙科学研究所、及び総合研究大学院大学が毎年一堂に会し、最先端の研究成果を広く一般に紹介するイベントです。



左：大学共同利用機関シンポジウムポスター、右：佐々木 顕教授

今回のシンポジウムでは、10名の研究者が「現代の社会問題に挑む日本の科学」をテーマに講演とパネルディスカッションを行いました。総研大からは、統合進化科学コースの佐々木 顕教授が登場し、「数理とデータがひもとくウイルスの流行と進化」について講演を行いました。

【広報社会連携係】

2024/11/26 2024 年度永年勤続者表彰式を举行



記念写真

2024年11月26日（火）、葉山キャンパスの学長室において永年勤続者表彰式を举行了。これは、「職員の永年勤続者表彰に関する規則」に基づき、永年誠実に勤務し、その成績が優秀で他の模範となる教職員を表彰するもので、2024年度は勤続20周年を迎えた4名が表彰されました。

式では、永田学長から表彰状と記念品が授与され、これまでの尽力に対する感謝の意が表せられました。引き続き、記念写真の撮影が行われ、和やかなうちに式は終了しました。

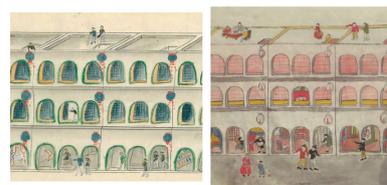
【人事係】

2024/11/29 中間報告論文研究発表会のオンライン開催

2024年11月29日（金）、日本文学研究コースで2024年度中間報告論文研究発表会をオンラインで開催しました。当発表会は博士論文作成指導のステップの一つで、2月初旬に提出される中間報告論文の審査に向けた重要な通過点となっています。また、学生が研究内容および進捗状況について発表し、教員から指導を受けることで、研究を練り上げる機会ともなっています。

今年度は、在学生の Escalona Echaniz Jose Manuel（以下エスカロナ）さん、石井行雄さん、坂井彪さん、水嶋彩乃さんの計4名が発表を行いました。発表者のうち今年度入学したエスカロナさんは、江戸時代後期に成立した『亜墨新話』*の伝来及び『亜墨新話』を中心とする江戸時代後期の漂流記における海外情報の系統化と記述のあり方を研究テーマとしています。発表会では13種類の『亜墨新話』の写本を比較し、書誌的な特徴や挿絵の同異を指摘した上で、写本の系統を整理した研究成果を発表しました。また、今後は調査対象を拡大し、写本間の関係性の明確化や、より原本に近い写本の推察等を行う方向性を示しました。

他の写本の特有性



UBC

国文研

今回コース内で初めて発表を行ったエスカロナさん。『亜墨新話』の写本の比較を説明する様子

参加したそれぞれの学生からは、関心の在処を示しながら、各々が進めてきた研究の成果を落ち着いて発表する姿が見られました。また、教員からは今後の立論方法に対する質問等が寄せられ、学生は教員の言葉に耳を傾けながら、各々の研究の課題や進め方を整理している様子でした。

今回の発表会は、学生にとって自身の研究生生活を見つめ直す機会となるとともに、プレゼンテーションスキルを身に着ける場となりました。

※『亜墨新話』(天保15年(1844)序写)

天保12年(1841)に海中で遭難した日本の船員がメキシコに滞在する漂流記であり、儒者の前川文蔵と地誌学者の酒井貞輝によって編纂されたもの。

【日本文学研究コース】

2024/12/11 ウズベキスタン共和国駐日大使館 の公使参事官が本学を表敬訪問

2024年12月11日(水)、駐日ウズベキスタン共和国大使館のジャリロフ・ムザッファル公使参事官が本学を表敬訪問されました。

当日は、永田敬学長、山本智理事・副学長、および蟻川謙太郎執行役と懇談され、本学とウズベキスタンの大学、研究機関等との更なる交流、コラボレーションを推進していく観点から、有意義な意見交換が行われました。

懇談後は、本学の統合進化科学研究センター棟を見学され、センターが実施する研究内容の説明を熱心に聞き入られていました。

今後、ウズベキスタンの大学、研究機関等と本学との更なる研究交流・連携が期待されます。

>> URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2024/20241211.html>

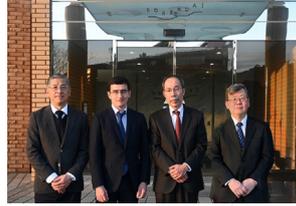
【総務係】



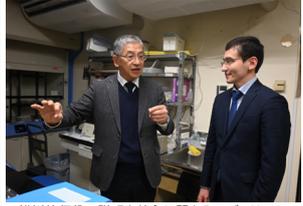
意見交換の様子



ジャリロフ・ムザッファル公使参事官から永田学長へウズベキスタンの伝統工芸品の贈呈



記念写真：左から）蟻川執行役、ジャリロフ・ムザッファル公使参事官、永田学長、山本理事



蟻川執行役の説明を熱心に聞き入るジャリロフ・ムザッファル公使参事官

AWARDS

2024/11/3 国際日本研究コース 瀧井一博教授

令和6年秋の褒章にて紫綬褒章受章

■功績：国制史、法制史学研究

※紫綬褒章は、科学技術分野における発明・発見や、学術及びスポーツ・芸術文化分野における優れた業績を挙げた方に授与されます。

>> URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2024/20241108.html>



瀧井一博教授

2024/11/3 及川昭文名誉教授、根岸正光名誉教授

令和6年度秋の叙勲にて瑞宝中綬章受章

※瑞宝章は、公務等に長年にわたり従事し、成績を挙げた方に授与されます。

>> URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2024/20241105.html>

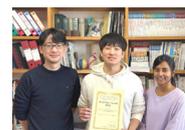


及川昭文名誉教授

2024/9/4-9/6 遺伝学専攻 学生 鳩山雄基さん (D5)

日本遺伝学会第96回大会 BP 賞受賞

>> URL: https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2024/12/information_ja/ha20241225-3.html



中央：鳩山雄基さん

2024/10/13 統合進化科学コース 蔦谷匠助教

日本人類学会にてAnthropological Science 論文奨励賞受賞

■受賞コメント

この論文では、近世日本の古人骨から得られたデータをメタ解析し、江戸時代には縄文時代ほどの食の多様性は見られなかったものの、現代の日本よりはずっと多様性があったことを明らかにしました。遺跡の発掘や古人骨の整理を地道に続けてこられた先人たちの積み重ねのもとで、今回の研究が可能になりました。共同研究者や総研大のみなさまはもちろんのこと、そうした考古学者や人類学者のたゆまぬ努力と、学術研究を支え可能にしてくださっている社会からの支援と理解に深く感謝したいと思います。

なお、この研究成果についてはこちらのプレスリリースで解説しています。

【プレスリリース】江戸時代の食の均質性はどのくらい? (<https://www.soken.ac.jp/news/2023/20231218.html>)

>> URL: https://www.anthropology.jp/as_prize.html



蔦谷匠助教

2024/10/29 核融合科学コース 向井清史助教

日本シミュレーション学会 Outstanding Presentation Award 受賞

2024/11/12 国際日本研究コース 片岡真伊准教授

第46回サントリー学芸賞受賞

■対象作品：日本の小説の翻訳にまつわる特異な問題 ― 文化の架橋者たちがみた「あいだ」

>> URL: https://www.soken.ac.jp/news/2024/20241118_1.html



片岡真伊准教授

2024/11/18 核融合科学コース 横山雅之教授、長壁正樹教授、釘持尚輝准教授、磯部光孝教授、小川国大准教授

プラズマ・核融合学会 第29回技術進歩賞受賞

>> URL: <https://www.jspf.or.jp/award2/work.html>

2024/11/18-11/22 遺伝学専攻 学生 南克彦さん (D5)、島添将誠さん (D3)、鳩山雄基さん (D5)

the 12th 3R+3C International SymposiumにてExcellent Poster Award 受賞

>> ゲノムダイナミクス研究室 (前島研究室)：南克彦さん、島添将誠さん

URL: https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2024/11/information_ja/ha20241125.html

>> 分子細胞工学研究室 (鐘巻研究室)：鳩山雄基さん

URL: https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2024/11/information_ja/ha20241128.html



左：南克彦さん
右：島添将誠さん



右：鳩山雄基さん

2024/11/20 核融合科学コース 矢嶋美幸助教

第41回プラズマ・核融合学会 年会 若手学会発表賞受賞

>> URL: <https://www.jspf.or.jp/youngscientist/>

2024/11/22 宇宙科学専攻 学生 小松龍世さん (D3)

日本ロケット協会主催 16th International Space Conference of Pacific-basin Societies (ISCOPS)にてThe Best Presentation Prize in the Ph.D category 受賞

■受賞コメント

近年、月探査の進展に伴い、月近傍での安全かつ効率的な活動を支えるため、GNSSのようなインフラの構築が重要視されています。このような背景の中で、私は月近傍ユーザを航法支援するためのコンステレーション設計に取り組みました。本研究では、従来よりも広い設計空間と新たな目的関数を導入し、多目的最適化問題として定式化することで、その解の構造を明らかにしました。

今回の受賞は、指導教員である川勝康弘教授のご指導や研究室メンバーとの議論があったことであり、深く感謝申し上げます。この成果を励みに、今後も宇宙科学分野の発展に貢献できるよう、研究活動に取り組んで参ります。

>> URL: http://www.jrocket.org/iscops_16th.html



写真左から4番目：小松龍世さん

2024/11/27 遺伝学専攻 学生 二橋彩音さん (D5)

MBSJ-EMBO Poster Award 優秀賞受賞

>> URL: https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2024/12/information_ja/ha20241225-2.html



二橋彩音さん

2024/12/8 日本語言語科学コース 学生 久保侘子さん (D4)

人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん 2024」にてじんもんこん 2024 学生奨励賞受賞

■受賞コメント

今回の発表では、日本の国語教科書で用いられてきた助動詞の意味・用法分類のデータベースの構築について述べました。これまで収集してきたデータを、先生のご指導のもとデータベースの形として提案することができました。まだ課題の多い研究ではありますが、今後学界に貢献していけるよう、さらに発展させていきたいと思っております。

>> URL: <https://jinmoncom.jp/sympo2024/>

2024/12/10 遺伝学コース 津田勝利助教

日本育種学会奨励賞および日本植物生理学会奨励賞受賞

■受賞コメント

この度は日本育種学会奨励賞と日本植物生理学会奨励賞という栄えある賞をいただき、大変光栄に思います。遺伝研の充実した研究環境と、研究にお力添えいただいた皆さまのおかげで、これまで手付かずだった植物の茎の発生メカニズムにチャレンジすることができました。今後も挑戦を続け、植物に潜む美しい仕組みを一つでも多く解き明かしていきたいと思っております。

>> URL: https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2024/12/information_ja/ha20241210.html



津田勝利助教

2024/12/17 日本語言語科学コース 石黒圭教授

令和6年度文化庁長官表彰受賞

>> URL: https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/94144401.html



石黒圭教授

2024/12/20 遺伝学コース 村山泰斗准教授

第21回日本学術振興会賞受賞

■受賞コメント

この度は日本学術振興会賞という栄えある賞を頂戴し、大変光栄に存じます。遺伝研の充実した研究環境と、研究室のスタッフをはじめとして研究に携わっていただいた皆様のご尽力のおかげで、本受賞につながる発見をすることができました。

心より感謝申し上げます。今後も初心を忘れず研究を進めていきたいと思っております。

>> URL: https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2024/12/information_ja/ha20241220.html



村山泰斗准教授

2025/1/11 遺伝学コース 近藤滋教授 (国立遺伝学研究所 所長)

現象数理学三村賞受賞

>> URL: https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2025/01/information_ja/ha20250116.html



記念講演をする近藤滋所長

2025/1/16-1/17 遺伝学専攻 学生 島添将誠さん (D3)

2024年度生命科学リトリートポスター賞受賞

>> URL: https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2025/01/information_ja/ha20250121.html



島添将誠さん

Press Release

2024/11/11

果実をよく食べる食肉目ジャコウネコ科の4種が同じ場所で生息できる理由 ～同じ果実を食べても動物食性の強さが異なっていた～

研究概要

広島大学大学院統合生命科学研究科の中林雅准教授と総合研究大学院大学統合進化科学研究センターの髙谷匠助教、海洋研究開発機構の石川尚人主任研究員、小川奈々子グループリーダー、大河内直彦部門長、佐々木瑠子臨時研究補助員、マレーシア・サバ大学のAbdul Hamid Ahmad教授は、炭素・窒素安定同位体分析とアミノ酸の化合物レベル窒素同位体分析によって、食肉目ジャコウネコ科パームシベット亜科に属する近縁な4種で動物食性の強さが異なる可能性があることを報告しました。

本研究成果は、日本時間で10月2日、日本地球惑星科学連合の科学雑誌「Progress in Earth and Planetary Science」(オンライン版)に掲載されました。

論文情報

- 掲載誌: *JProgress in Earth and Planetary Science*
- 論文タイトル: Dietary partitioning in sympatric Paradoxurinae civets in Borneo suggested by compound-specific nitrogen isotope analysis of amino acids



図1. ボルネオ島で同じ環境に生息する食肉目ジャコウネコ科パームシベット亜科4種(左上から時計回りにピントロング、ハクビシン、ミスジパームシベット、パームシベット)

- 著者: Miyabi Nakabayashi^{1*}, Takumi Tsutaya^{2,3*}, Abdul Hamid Ahmad⁴, Yoko Sasaki³, Nanako O. Ogawa³, Naoto F. Ishikawa³ & Naohiko Ohkozuchi³

*責任著者

¹広島大学大学院統合生命科学研究科, ²総合研究大学院大学統合進化科学研究センター, ³海洋研究開発機構, ⁴マレーシア・サバ大学

- DOI: <https://doi.org/10.1186/s40645-024-00655-6>
- URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2024/20241111.html>

2024/11/18

月面利用の拡大に向けた先行的な技術の研究開発開始! ～超小型・高機能な宇宙放射線環境の計測技術とリアルタイム被ばく線量評価システムの構築～

研究概要

名古屋大学宇宙地球環境研究所、東京大学、京都大学、神戸大学、高エネルギー加速器研究機構、総合研究大学院大学、理化学研究所、東京理科大学は、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(以下、JAXA)が募集した「2021年度 月面での科学研究・技術実証ミッションにかかるフィジビリティスタディテーマ1)」に採択された「月面利用の拡大に向けた超小型・高機能な宇宙放射線環境の計測技術とリアルタイム被ばく線量評価システムの構築」の研究成果(2,3)を発展させ、月面上・月軌道での将来の搭載機器開発を促進させるための先行的な技術の研究開発(フロントローディング)活動を開始します。

本研究グループは、今後も技術成熟度レベル(Technology Readiness Levels:TRL)を向上させることで月面探査に向けた搭載機会を獲得し、人類の深宇宙への進出に貢献する研究を加速します。

今後の展望

本フロントローディングでの研究成果は、今後の月周回・月面開発において

- 一月面多点での宇宙放射線計測の実現(月面百葉箱)
- 一宇宙放射線環境リアルタイムモニタリング(評価・予測)の実現
- 一帯電・被ばく量の導出と、月面被ばくハザードマップの策定

に活用する予定です。これらの技術は、太陽高エネルギー粒子(SEP)の発生にかかる宇宙天気予測、月面食糧供給システムの安定運用、月面構造物建設における遮蔽設計・防護対策やモバイル計測器による縦孔底・地下空洞など地下環境サーベイなど、今後の月周回・月面における新たな有人拠点活動(ハビテーションマ4)に活用されることが期待されます(図1 本研究成果の月環境での運用イメージ)。



図1 本研究成果の月環境での運用イメージ

- URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2024/20241118.html>

2024/11/20

水素イオンの流れを使って ATP 合成酵素が回転する仕組みを解明! 創薬ターゲットタンパク質である ATP 合成酵素の解明によって将来的な医薬応用への波及にも期待

研究概要

京都産業大学生命科学部 横山 謙 教授、西田結衣さん（修士課程 2 年生）、京都工芸繊維大学応用生物学系 岸川 淳一 准教授、自然科学研究機構分子科学研究所/総合研究大学院大学 岡崎 圭一 准教授らのグループは、クライオ電子顕微鏡法と分子動力学シミュレーションを用いて、好熱菌由来 ATP 合成酵素の詳細な構造とその回転メカニズムを明らかにしました。

ATP（アデノシン三リン酸）は、生命にとって最も重要なエネルギー物質であり、細胞のミトコンドリアに存在する ATP 合成酵素という巨大なタンパク質によって合成されます。この酵素は、生体膜を横断する水素イオンの流れを回転力に変換し、その力で ATP を生成します。これまで、水素イオンの流れがどのようにして ATP 合成酵素を回転させるのか、その詳細な分子メカニズムは不明でした。しかし、本研究では、ATP 合成酵素の回転力を発生させる膜内部分（Vo 部分）の詳細な構造をクライオ電子顕微鏡で解明し、回転力発生に重要な役割を果たすアミノ酸残基の向きを特定しました。さらに、Vo 部分の構造を基に分子動力学シミュレーションを行い、水素イオンの流れによる回転メカニズムを解析しました。その結果、回転リングにある特定のアミノ酸残基の荷電状態の変化が回転力発生に重要であることがわかりました。ATP 合成酵素は、ヒトから細菌に至る幅広い生物界に存在するタンパク質です。本研究で特定されたアミノ酸残基はすべての ATP 合成酵素にほぼ保存されており、この発見は生命が ATP を合成する最も重要な仕組みの解明に貢献するものです。

本成果は、2024 年 11 月 20 日（水）19：00（日本時間）に国際学術誌『Nature Communications』にてオンライン掲載されました。

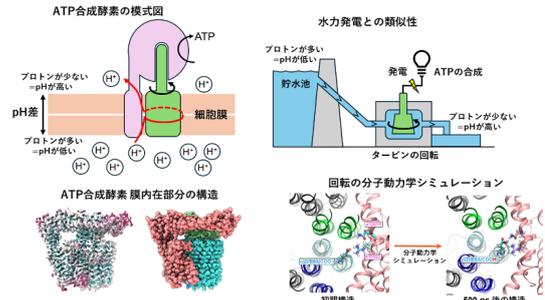


図1. ATP 合成酵素の構造解析と分子動力学シミュレーション

論文情報

- » 掲載誌: **Nature Communications**
- » 論文タイトル: Rotary mechanism of the prokaryotic Vo motor driven by proton motive force.
(原核生物 Vo モーターのプロトン駆動力による回転メカニズム)
- » 著者: 【筆頭】 Jun-ichi Kishikawa^{1,2,3}, Yui Nishida¹, Atsuki Nakano¹, Takayuki Kato², Kaoru Mitsuoka⁴
【責任】 Kei-ichi Okazaki^{5,6*} and Ken Yokoyama^{1*}
所属:
¹Department of Molecular Biosciences, Kyoto Sangyo University
²Institute for Protein Research, Osaka University
³present affiliation; Department of Applied Biology, Kyoto Institute of Technology
⁴Research Center for Ultra-High Voltage Electron Microscopy, Osaka University
⁵Research Center for Computational Science, Institute for Molecular Science
National Institutes of Natural Sciences
⁶Graduate Institute for Advanced Studies, SOKENDAI
- » DOI: [10.1038/s41467-024-53504-x](https://doi.org/10.1038/s41467-024-53504-x)
- » URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2024/20241120.html>

2024/11/25

バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）感染症の治療に道 - ナトリウムポンプ阻害剤の発見とその阻害機構を解明 -

研究概要

千葉大学大学院理学研究院（膜タンパク質研究センター兼任）の村田武士教授、鈴木花野特任助教、真菌医学研究センターの後藤義幸准教授らは、高エネルギー加速器研究機構（KEK）物質構造科学研究所、自然科学研究機構分子科学研究所、京都大学大学院医学研究科、群馬大学大学院医学系研究科、横浜市立大学大学院生命医科学研究科との共同研究により、バンコマイシンを含む多くの抗生物質に耐性を持つバンコマイシン耐性腸球菌（Vancomycin-resistant *Enterococcus faecium* : VRE）感染症に対する新たな治療法の可能性を開きました。

研究チームは、VRE のアルカリ環境での生育に必須となるナトリウムポンプ（Na⁺ 輸送性 VoV1-ATPase）の阻害剤「V-161」を同定しました。そして、V-161 の投与によりマウス小腸での VRE の定着が抑制されることを発見しました。さらに、ナトリウムポンプと V-161 の結合部位の詳細な立体構造を解明し、ナトリウム輸送の仕組みと V-161 による阻害の仕組みを明らかにしました。

本研究成果は、VRE ばかりでなく、薬剤耐性菌による多くの感染症に対する効果的な抗菌薬の開発にも貢献することが期待されます。この研究は 2024 年 11 月 21 日に英国科学誌『Nature Structural & Molecular Biology』でオンライン速報版として発表されました。

論文情報

- ≫ 掲載誌: *Nature Structural & Molecular Biology*
- ≫ 論文タイトル: Na⁺-V-ATPase inhibitor curbs VRE growth and unveils Na⁺ pathway structure
- ≫ 著者: Kano Suzuki[†], Yoshiyuki Goto[†], Akihiro Otomo, Kouki Shimizu, Shohei Abe, Katsuhiko Moriyama, Satoshi Yasuda, Yusuke Hashimoto, Jun Kurushima, Sho Mikuriya, Fabiana L. Imai, Naruhiko Adachi, Masato Kawasaki, Yumi Sato, Satoshi Ogasawara, So Iwata, Toshiya Senda, Mitsunori Ikeguchi, Haruyoshi Tomita, Ryota Iino, Toshio Moriya and Takeshi Murata* ([†]筆頭著者、* 責任著者)
- ≫ DOI: [10.1038/s41594-024-01419-y](https://doi.org/10.1038/s41594-024-01419-y)
- ≫ URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2024/20241125.html>

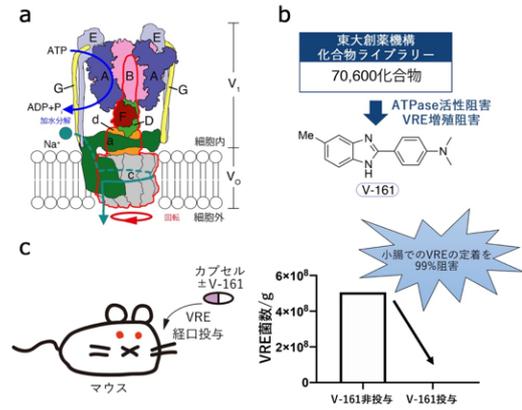


図1 腸球菌 Na⁺輸送性 V-ATPase とその阻害剤「V-161」による VRE 増殖抑制効果
 a) 腸球菌 Na⁺輸送性 V-ATPase の構造モデル
 ATP のエネルギーにより赤で囲われた軸が回転し Na⁺ が細胞外に輸送される
 b) V-161 の同定とその化学構造式
 c) マウスへの V-161 投与実験結果

2024/12/13

アルマ望遠鏡が捉えた惑星系形成の現場

研究概要

アルマ望遠鏡による観測で、形成されて間もない惑星の外側に、次の惑星の材料となる塵（ちり）が局所的に集まっている現場を捉えました。これは、すでに形成された惑星が次に作られる惑星の材料を集めて、形成を後押ししている可能性を示唆しています。本研究は、太陽系のような複数の惑星から成る「惑星系」の形成過程の解明に貢献するものです。

太陽系外惑星は、これまでに 5000 個以上発見されており、それらの多くは複数の惑星から成る「惑星系」を構成しています。これら惑星は、若い星を取り囲む原始惑星系円盤の中で、マイクロメートルサイズの固体微粒子である塵から生まれると考えられています。しかし、どのようにして塵が集まり、惑星系が形成されるのか、その詳細な過程は未だに解明されていません。

若い星「PDS 70」は、この星を取り巻く原始惑星系円盤で惑星形成が進行中である一方、この円盤の内側にすでに形成された惑星が 2 つ発見されている唯一の天体です。PDS 70 の周囲の塵の分布を調べることは、そこで形成された惑星が、原始惑星系円盤やさらなる惑星の形成にどのような影響を及ぼしているかを、解明する手がかりとなります。この天体は過去に、惑星の外側にリング状に分布した塵からの放射が、アルマ望遠鏡を用いた波長 0.87 ミリメートルの観測によって捉えられていました。しかしこの波長では、放射の分布が塵の分布に対応していない可能性がありました。

そこで研究チームは、アルマ望遠鏡を用いた PDS 70 の原始惑星系円盤の高解像度観測を、3 ミリメートルの波長で行いました。この観測では、過去に行った 0.87 ミリメートルの観測よりも塵の分布をより正確に捉えることができます。今回行った波長 3 ミリメートルでの観測では、過去の観測とは異なった塵の放射分布が示され、惑星の外側のリングの中でも特定の方向に塵の放射が集中していることが明らかになりました。これは、成長した塵が狭い領域に集まっていることを意味します。

惑星の外側に見つかった塵の集まりは、すでに形成された惑星が

その外側の狭い領域に塵を掃き集めていることを示唆します。この狭い領域に集められた塵が合体し、次の惑星の形成へとつながります。太陽系のような複数の惑星から成る惑星系の形成は、このような過程を繰り返しながら、内側から順に惑星の形成が進むと説明できることを示しています。このように本研究では、すでに形成された惑星が周囲の円盤に影響を及ぼし、惑星系の形成に至る過程を観測的に捉えることに成功したのです。

本研究を主導した国立天文台で研究を進める総合研究大学院大学院生（現在はマックスプランク天文学研究所に所属）の土井聖明（どい きよあき）さんは、次のように語っています。

「同じ天体内でも、天体を構成する要素ごとに異なる波長で光を放射します。そのため、一つの天体を複数の波長で観測することで、個々の構成要素が際立って捉えられます。PDS 70 は、同じアルマ望遠鏡の観測でも波長ごとに異なる放射分布を示しており、アルマ望遠鏡で複数の波長域で観測することの重要性が分かります。構成要素は互いに影響を及ぼし合うため、さまざまな望遠鏡、観測設定で異なる要素を観測し、それらを比較することで、その系全体の理解を深めることができるのです。」

論文情報

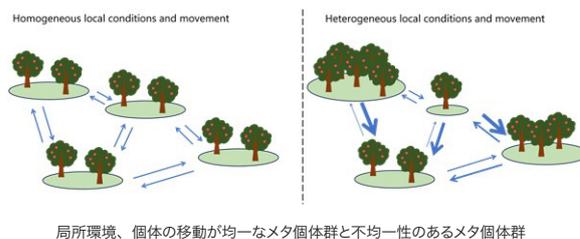
- ≫ 掲載誌: *Astrophysical Journal Letters*
- ≫ 論文情報: Kiyooki Doi et al.
 “Asymmetric Dust Accumulation of the PDS 70 Disk Revealed by ALMA Band 3 Observations”
- ≫ 発表者: 土井 聖明 マックスプランク天文学研究所（ドイツ）
 ポストドクトラルフェロー
 ※研究当時は、総合研究大学院大学 5 年一貫制博士課程 / 国立天文台
- ≫ 発表機関: 自然科学研究機構 国立天文台 / 総合研究大学院大学 / 合同アルマ観測所
- ≫ URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2024/20241213.html>

2024/12/20

宿主集団の不均一性は、より致死率の高い病原体の進化を促す

研究概要

自然界の環境は不均一で、異なる局所環境をもつ地域集団が地続きとなって存在しています。ですが、これまでの病原体の進化理論では環境の不均一性はほとんど考慮されてきませんでした。本研究では、不均一な局所条件を持つ地域集団が個体の移動によって結びついたメタ個体群モデルにおいて、局所環境の不均一性が病原体の毒性進化に与える影響を解析しました。その結果、宿主の移動率・繁殖率・環境収容力・免疫喪失率という4つの局所条件が地域集団の間で異なる場合には、進化する病原体の毒性が均一な集団よりも常に高くなり、不均一性の度合いが高いほど進化する毒性も高くなるという、きわめて一般性の高い結果を明らかにしました。本研究の結果は、これまでの均一環境を仮定した病原体の進化理論では進化する毒性を過小評価していたことを示唆し、大都市への人口集中などによって不均一性が増大していく現代において、より致死率の高い病原体が進化するという新たなリスクを提示します。



論文情報

- ≫ 掲載誌: *PNAS* (米国科学アカデミー紀要)
- ≫ 論文タイトル: Metapopulation heterogeneities in host mobility, productivity, and immunocompetency always increase virulence and infectiousness
- ≫ 著者: 佐藤正都 (産業技術総合研究所 生物プロセス研究部門・特任研究員)、ウルフ・ディークマン (沖縄科学技術大学院大学 複雑性科学と進化ユニット・教授)、佐々木顕 (総合研究大学院大学 統合進化科学研究センター・教授)
- ≫ DOI: [10.1073/pnas.2309272121](https://doi.org/10.1073/pnas.2309272121)
- ≫ URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2024/20241220.html>

2024/12/24

スズを含むペロブスカイト半導体の界面構造制御法の開発とメカニズム解明～高性能多接合(タンデム)型太陽電池の実現～

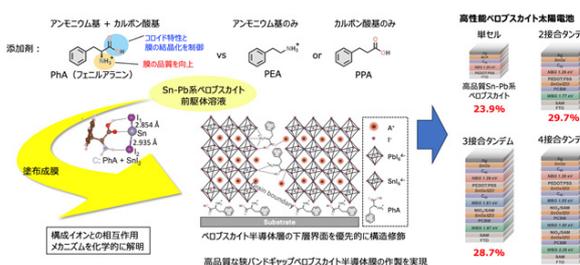
研究概要

京都大学化学研究所の若宮 淳志 教授 (iCeMS 連携 PI)、Shuaifeng Hu 博士後期課程 (研究当時、現: オックスフォード大博士研究員)、Minh Anh Truong 助教らの研究グループは、オックスフォード大学の Henry J. Snaith 教授、Junke Wang 博士、自然科学研究機構分子科学研究所の Pei Zhao 特任助教、江原 正博 教授 (総合研究大学院大学)、理化学研究所の中野 恭兵 博士、但馬 敬介 博士らとの共同研究成果として、スズを含む Sn-Pb 系ペロブスカイト半導体の界面構造制御法を開発し、これをボトムセルとして用いることで、オールペロブスカイトのタンデム型太陽電池の高性能化を実現しました。

独自の添加剤として、アミノ酸基とカルボン酸基を分子内に併せ持つフェニルアラニンを用いることで、高品質な Sn-Pb 系ペロブスカイト半導体膜が作製できる手法を開発しました。各種分光測定の結果と理論計算により、塗布成膜過程でのフェニルアラニンがどのようにペロブスカイトの構成イオンと相互作用し、埋もれたペロブスカイトの下層の界面を選択的に構造制御するのかについて、化学的な視点からそのメカニズムの詳細を解明しました。この手法で得られた高品質な Sn-Pb 系ペロブスカイト層を用いて作製した、単接合セル、2 接合型タンデムセル、および 3 接合型タンデムセルの各デバイスでは、それぞれ 0.91 V、2.22 V、および 3.46 V の開放電圧が得られ、23.9%、29.7% (認証値 29.26%)、および 28.7% の光電変換効率を達成しました。また、1 cm² のサイズの 3 接合デバイスでも、28.4% (産業技術総合研究所 (AIST) にて 27.28% の認証値) の光電変換特性を得る

ことができました。さらに本研究では、初めて 4 接合型のペロブスカイトタンデム型デバイスまで作製し、4.94 V もの高い開放電圧と 27.9% の光電変換特性が得られることを実証しました。

本研究成果は、2024 年 12 月 23 日 (現地時刻 16:00 pm) に「Nature」にオンライン掲載されました。



本研究の成果: フェニルアラニンを添加剤に用いたペロブスカイト層界面の構造制御と高性能タンデム型ペロブスカイト太陽電池の開発

論文情報

- ≫ 掲載誌: *Nature* (2024)
- ≫ 論文タイトル: Steering perovskite precursor solutions for multijunction photovoltaics (多接合太陽電池用ペロブスカイト前駆体溶液の取り扱い法)
- ≫ DOI: [10.1038/s41586-024-08546-y](https://doi.org/10.1038/s41586-024-08546-y)
- ≫ URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2024/20241224.html>

- >> 著者：Shuaifeng Hu,^{†,*,a,b} Junke Wang,^{†,a} Pei Zhao,^{a,c} Jorge Pascual,^{b,d} Jianan Wang,^{e,f} Florine Rombach,^a Akash Dasgupta,^a Wentao Liu,^b Minh Anh Truong,^b He Zhu,^{e,f} Manuel Kober-Czerny,^a James N. Drysdale,^a Joel A. Smith,^a Zhongcheng Yuan,^a Guus J. W. Aalbers,^g Nick R. M. Schipper,^g Jin Yao,^h Kyohei Nakano,ⁱ Silver-Hamill Turren-Cruz,^{b,j} André Dallmann,^k M. Greyson Christoforo,^a James M. Ball,^a David P. McMeekin,^a Karl-Augustin Zaininger,^a Zonghao Liu,^{e,f} Nakita K. Noel,^a Keisuke Tajima,ⁱ Wei Chen,^{e,f} Masahiro Ehara,^c René A. J. Janssen,^{g,l} Atsushi Wakamiya,^{*,b} and Henry J. Snaith^{*,a}
- >> 所属：
- ^aClarendon Laboratory, Department of Physics, University of Oxford, U.K.
- ^bInstitute for Chemical Research, Kyoto University, Japan.
- ^cResearch Center for Computational Science, Institute for Molecular Science, Japan.
- ^dPolymat, University of the Basque Country UPV/EHU, Spain.

- ^eWuhan National Laboratory for Optoelectronics, Huazhong University of Science and Technology (HUST), China.
- ^fOptics Valley Laboratory, China.
- ^gMolecular Materials and Nanosystems and Institute for Complex Molecular Systems, Eindhoven University of Technology, The Netherlands.
- ^hNational Thin Film Cluster Facility for Advanced Functional Materials, Department of Physics, University of Oxford, U.K.
- ⁱRIKEN Center for Emergent Matter Science (CEMS), Japan.
- ^jInstituto de Ciencia de los Materiales (ICMUV), Universitat de Valencia, Spain.
- ^kHumboldt Universität zu Berlin, Institut für Chemie, Germany.
- ^lDutch Institute for Fundamental Energy Research, The Netherlands.
- [†]These authors contributed equally.

2025/1/22

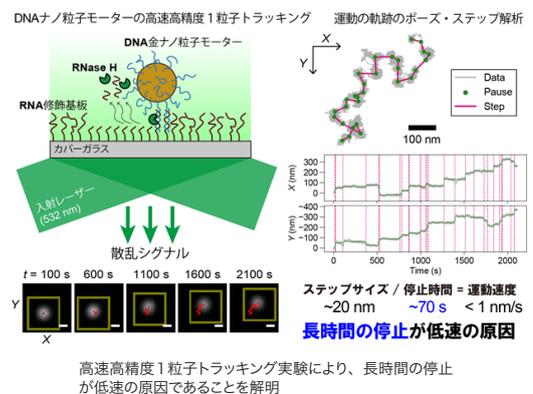
人工分子モーターの合理的な改造で天然のモータータンパク質に匹敵する運動速度と走行距離を達成

研究概要

分子科学研究所／総合研究大学院大学の原島崇徳助教、大友章裕助教（当時、現京都大学大学院理学研究科助教）、飯野亮太教授らの研究グループは、人工分子モーターの一種であるDNA ナノ粒子モーターの運動素過程と化学反応素過程の解析に基づき、合理的に運動性能を向上させることに成功しました。この成果により、30 nm/s（秒速 30 ナノメートル、ナノメートルは 1 メートルの 10 億分の 1 の大きさ）の運動速度と 3 μ m（マイクロメートル、= 1000 ナノメートル）の走行距離を同時に達成し、天然に存在するモータータンパク質の運動性能に匹敵する人工分子モーターを初めて実現しました。本研究成果は国際学術誌「Nature Communications」に 2025 年 1 月 16 日付でオンライン掲載されました。

論文情報

- >> 掲載誌：*Nature Communications*
- >> 論文タイトル：“Rational engineering of DNA-nanoparticle motor with high speed and processivity comparable to motor proteins”（生体分子に匹敵する高速・高プロセスビティの DNA ナノ粒子モーターの合理的性能向上）
- >> 著者：Takanori Harashima, Akihiro Otomo, Ryota Iino
- >> DOI: [10.1038/s41467-025-56036-0](https://doi.org/10.1038/s41467-025-56036-0)
- >> URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2024/20250122.html>



研究助成学生の研究紹介

SOKENDAI 研究派遣プログラム等に採択された学生の研究概要を順次本学ホームページに紹介しています。

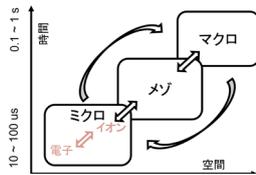
<https://www.soken.ac.jp/student-research/index.html>

新規掲載情報



Synthesis and Reactivity Studies of Dendralenes for Chemically Recyclable Copolymers

- >> 服部修佑
- >> 機能分子科学
- >> SOKENDAI 研究派遣プログラム
- >> URL: <https://www.soken.ac.jp/student-research/20241211.html>



トカマク装置におけるマルチスケール乱流間相互作用の研究

- >> 那須達丈
- >> 核融合科学
- >> SOKENDAI 研究派遣プログラム
- >> URL: <https://www.soken.ac.jp/student-research/20250107.html>

メディア情報

2024/10/1 京都新聞

- >> 齋藤玲子准教授 (人類文化研究コース)
- >> タイトル: 京都プレミアムコラム「芋掘り」
- >> URL: <https://www.kyoto-np.co.jp/search?page=4&fulltext=%E7%8F%BE%E4%BB%A3%E3%81%AE%E3%81%93%E3%81%A8%E3%81%B0>

2024/10/30 日本経済新聞

- >> 丹羽典生教授 (人類文化研究コース)
- >> タイトル: 日本人写真家のガラパゴス
～ 20 世紀前半、米国調査隊員として太平洋巡った
朝枝利男の足跡たどる～

2024/11/1 ゲームさんぽ / ライブドアニュース (YouTube)

- >> 松本雄一准教授 (人類文化研究コース)
- >> タイトル: 【ロマンたっぷり】「Unknown 9: Awakening」に登場する遺跡を考古学者と見てみた #01 【ゲームさんぽ】架空の遺跡が登場するゲームを、松本先生と南山大学の渡部先生と一緒に見てコメントしていく。
- >> URL: <https://www.youtube.com/watch?v=FtmMR5k2jSQ>

2024/11/9 ゲームさんぽ / ライブドアニュース (YouTube)

- >> 松本雄一准教授 (人類文化研究コース)
- >> タイトル: 【ゲームさんぽ】実際の遺跡調査でも「謎解き」要素はある? 考古学者とゲームの遺跡を見てみた 架空の遺跡が登場するゲームを、松本先生と南山大学の渡部先生と一緒に見てコメントしていく。
- >> URL: <https://www.youtube.com/watch?v=8wotwKPJW6Y>

2024/12/20 毎日新聞

- >> 広瀬浩二郎教授 (人類文化研究コース)
- >> タイトル: 触る体験 人生を豊かに

2025/1/3 エフエム EGAO 「EGAO FRIDAY SCIENCE LAB.」

- >> 加藤晃一教授 (分子科学コース)
 - >> URL: <https://www.youtube.com/watch?v=deKirqiSkeU>
- ※分子科学研究所の研究者が毎月ゲスト出演し、研究内容や暮らしとのかかわり、人となりについてトークするラジオ番組の YouTube アーカイブ
(参考) 2023 年度は基礎生物学研究所の研究者が出演

イベント情報

日程	イベント名	URL	実施機関
2024/4/1- 2025/3/19	分子科学研究所 短期インターンシップ	https://www.ims.ac.jp/education/event.html	分子科学研究所
2025/2/6- 2/7	SOKENDAI Asian Winter School 2025	https://guas-astronomy.jp/eng/Applicants/winter2025.html	天文科学コース / 国立天文台
2025/2/14	2024年度 核融合科学コースで学ぼう! 研究最前線 説明会・講演会	https://soken.nifs.ac.jp/archives/admissions_info/setsumeikai	核融合科学コース
2025/2/17- 2/21	総研大遺伝学コース体験入学 春休み定期コース	https://www.nig.ac.jp/nig/ja/phd-program/taiken#spring	遺伝学コース
2025/2/19	総研大遺伝学コース 大学院見学会	https://www.nig.ac.jp/nig/ja/phd-program/taiken#tour	遺伝学コース
2025/3/10- 3/13	2024年度 第15回総研大・国立天文台 スプリングスクール(春の体験入学)	https://guas-astronomy.jp/springs.html	天文科学コース / 国立天文台
2025/3/13- 6/17	みんぱく創設50周年記念企画展「点と線の美学——アラビア書道の軌跡」	https://www.minpaku.ac.jp/ai1ec/event/56835	国立民族学博物館 相島葉月准教授
2025/3/19	特別講義 (渡辺浩一先生)	https://www.nijl.ac.jp/education/university/information/lecture.html	日本文学研究コース
2025/3/20- 6/3	みんぱく創設50周年記念特別展「民具のミカタ博覧会——見つけて、みつめて、知恵の素」	https://www.minpaku.ac.jp/ai1ec/event/54156	国立民族学博物館 日高真吾教授
2025/4/22	分子科学研究所創設50周年記念式典	https://www.ims.ac.jp/50th/ceremony/	分子科学研究所

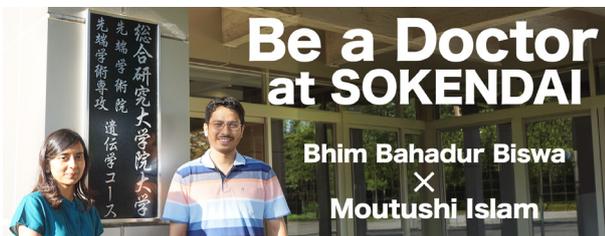
その他

【学生インタビュー】

本学の魅力を伝えることを目的に、学生インタビューを行い、その記事および動画を Web サイトに掲載しております。ここでは最新の記事を抜粋して掲載しております。是非 Web サイトにて全文をご覧ください。

>> <https://www.soken.ac.jp/outline/pr/dialogue/index.html>

■ Be a Doctor at SOKENDAI

- 遺伝学専攻 Bhim Bahadur Biswa さん
× Moutushi Islam さん -

Moutushi Islam さんが修了間近で秋から新しいキャリアを始める Bhim さんに、研究の面白さや留学生として日本に住むことについて、お話をうかがいました。

インタビュー内容

- ・ 国立遺伝学研究所 (NIG) での研究
- ・ 研究でわくわくすること
- ・ 学生生活
- ・ 留学生としてチャレンジングだったこと
- ・ 経済的支援について
- ・ 修了後のこと
- ・ 総研大でよかったこと
- ・ 日本での生活
- ・ 総研大で博士号を取ろうと思っている学生へのメッセージ
- ・ 現学生へのメッセージ



Bhim Bahadur Biswa さん

>> 全文 URL :

<https://www.soken.ac.jp/news/2024/20250117.html>

インタビュー
Moutushi Islam さん

編集後記

今年はいつになくインフルエンザや風邪などが流行っており、インフルエンザとコロナのダブル罹患なども聞きます。手洗いにマスク着用、咳エチケットなどの対策が大切であるのと同時に、免疫力を高める努力も個人でできる対策の一つかと思います。免疫力を高めるためには様々な方法があるかと思いますが、「笑い」もその一つではないでしょうか。笑顔や笑いには不思議な力があり、笑っている本人も、その周りの人も、心身ともに元気になるような気がします。2025年、どうか皆さまがいつも暖かな笑いの中にいられますように。

(広報社会連携係)

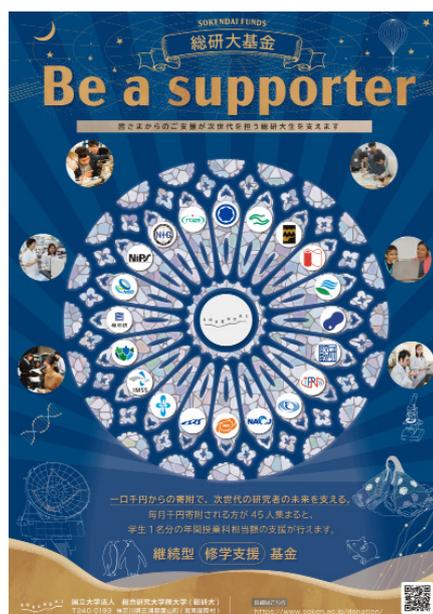


総研大基金によるご支援について

本学では、経済的に困難を抱える学生の支援等を推進するため、総研大基金を設立しています。ぜひ皆様のご支援をお願いいたします。

【詳細はこちら】

<https://www.soken.ac.jp/donation/>



広報社会連携係では、メディアを通じて総研大の研究成果を広く社会に発信しています。特に、総研大学生が筆頭著者として研究論文を出版する際など、プレスリリースを行う場合は、総研大と基盤機関との共同プレスリリースを行っておりますので、是非総研大広報社会連携係までご連絡ください。

また、学生や教員のメディア出演や受賞・表彰、地域社会と連携・密着したアウトリーチ活動といった社会連携・貢献活動など、様々な活動について、ニュースレター、ウェブ掲載等により発信しておりますので、是非情報をお寄せください。

なお、研究論文を投稿する場合やメディア等へ出演される場合は「総合研究大学院大学」と表記いただき、総研大の知名度向上へご協力ください。

2025年2月発行

編集・発行

国立大学法人 総合研究大学院大学

総合企画課広報社会連携係

神奈川県三浦郡葉山町 湘南国際村

TEL: 046-858-1629

Email: kouhou1@ml.soken.ac.jp

© 2025 SOKENDAI